

## 目標達成計画

作成日: 平成 27年 8月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		出来る事、出来ない事の把握が薄く、過剰な支援を行っている事が考えられる。	現存機能を維持しながら、出来る事を尊重し、自立支援を行う。	個々の能力を把握し、出来る事、出来ない事を再度アセスメントを行い、過剰な支援ではなく、能力に応じた支援を行える様に努める。	12ヶ月
2		ADLの低下に伴い介助が多くなってきているが、介助し過ぎで、現存機能を意識した「自立支援」が行えているか？疑問を感じる。	ひとりひとりの現存機能をしっかりと職員が把握し、声かけをしながら、本人に意識して貰い、現存機能を生かした介助を行う。	移動時には、「立位保持、方向転換のバランス、歩行時に足運び」など、動作を分解して現存機能を確認する。 その他のADL面でも同じで、ひとつひとつの動作を分解して現存機能の把握に努める	12ヶ月
3		利用者様ひとりひとりの要望に添ったレク活動時間をあまり持てていない。	利用者ひとりひとりに合った余暇活動の時間を定期的に提供したい。	・利用者様の中には、ご自分の要望(調理、外出等)を言われない方もいる。普段の様子から利用者様ひとりひとりの思いを汲み取り、その方にとっての楽しい時間を過ごして頂く。 ・レク実施表を活用し実施状況を把握する。	12ヶ月
4					月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。